

大会アピール・大会宣言

人が集い、人と人が触れ合う機会を奪った新型コロナウイルス感染症、その猛威はようやく小康状態、そして終息の気配が見え始めた今日この頃、私たちは再度「感染しない」「感染させない」行動を肝に銘じ、親しく触れ合える日常が、一日も早く戻ることを願います。

このような社会情勢だからこそ、人として、誰もが持つ「人権」が等しく尊重され、互いの存在を受け入れ、互いを思いやる、そして誰一人として取り残さない社会が、今まさに求められていると思います。

生まれた地域で自分らしく生きることは、何か難しいことがあるのでしょうか。人として、当たり前なことではないでしょうか。地域で暮らす誰もが、ちょっとした迷惑は、お互いに掛けているのが地域ではないでしょうか。だからこそ、隣近所が互いを思いやる「お互い様」と「お蔭様」という素晴らしい言葉が在るのだと思います。今こそ、互いを思いやる、互いを理解し合える寛容な地域社会が求められています。

私たち手をつなぐ育成会は、意思が伝わりにくい我が子の代弁者として、人として尊厳のある人生の実現を目指し、今日まで活動して来ました。まだまだ道半ばです。我が子らの豊かな人生の実現の為、本大会の思い（想い）を新たに共有し、大会宣言を発します。

1. 地域社会、地域福祉における育成会活動の役割とその意義を認識し、活動につなげよう。
1. みんなが暮らす地域社会から障害者差別をなくそう。
1. 地域で暮らす知的障害者を取り巻く仕組みと課題をよく知り、必要な支援が届くよう運動しよう。

令和4年10月22日

第56回 手をつなぐ育成会 関東甲信越大会 長野大会